

《担当者名》教授 / 遠藤 泰
教授 / 柳川 芳毅

【概要】

薬物療法学 では、感染症および悪性腫瘍の病態生理と薬理学的背景に基く薬物療法を学習する。

【学修目標】

感染症の発症機構と病態を説明できる。
感染症治療薬を列挙し、作用機序および臨床適用を説明できる。
悪性腫瘍の発症機構と病態を説明できる。
悪性腫瘍治療薬を列挙し、作用機序および臨床適用を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	感染症治療薬 教科書1:p557～576 資料配布	抗菌薬の作用機序を説明できる。 抗菌薬の抗菌スペクトルを説明できる。 抗菌薬の主な副作用を説明できる。 代表的な抗菌薬の基本構造と薬効の関連を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1, 2, -1	柳川 芳毅
2	感染症治療薬 教科書1:p579～585 資料配布	抗ウイルス薬の作用機序を説明できる。 抗ウイルス薬の主な副作用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1～6	柳川 芳毅
3	感染症治療薬 教科書1:p577～579, p585～586 資料配布	抗真菌薬の作用機序と主な副作用を説明できる。 抗原虫・寄生虫薬の作用機序と主な副作用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1, 2, -1, 2	柳川 芳毅
4	感染症の病態生理と薬物療法 教科書2:p148～215 資料配布	細菌感染症の発症機構を説明できる。 細菌感染症の薬物療法と予防法を説明できる。 抗菌薬に対する耐性獲得機構と耐性菌出現への対応を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1, -1～10	柳川 芳毅
5	感染症の病態生理と薬物療法 教科書2:p216～289 資料配布	ウイルス感染症の発症機構を説明できる。 ウイルス感染症の薬物療法と予防法を説明できる。 真菌感染症の発症機構と薬物療法を説明できる。 原虫・寄生虫感染症の発症機構と薬物療法を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1～6, -1, 2, -1, 2	柳川 芳毅
6	悪性腫瘍の病態生理 総論・造血器腫瘍 固形腫瘍 教科書4:p106～199 教科書3:p341～473 資料配布	悪性腫瘍の特徴について説明できる。 造血器腫瘍（白血病・骨髄系腫瘍・悪性リンパ腫多発性骨髄腫など）の病態について説明できる。 骨のがん・消化器のがん・呼吸器のがんなどの病態について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標	遠藤 泰

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		E2-(7)- -1~3, 5, 6 E2-(7)- -7~9	
7	悪性腫瘍の病態生理 固形腫瘍 教科書3:p341~433,p476~525 資料配布	脳腫瘍・頭頸部のがん・乳房のがん・婦人科のがん・泌尿器のがん・悪性軟部腫瘍・皮膚のがんなどの病態について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -10~13	遠藤 泰
8	悪性腫瘍の治療学 教科書4:p106~199 資料配布	造血器腫瘍(白血病・骨髄系腫瘍・悪性リンパ腫多発性骨髄腫など)の薬物療法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1~6, -1	遠藤 泰
9	悪性腫瘍の治療学 教科書3:p341~473 資料配布	骨のがん・消化器のがん・呼吸器のがんなどの薬物療法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1~4, 7~9, -1	遠藤 泰
10	悪性腫瘍の治療学 教科書3:p341~433,p476~525 資料配布	脳腫瘍・頭頸部のがん・乳房のがん・婦人科のがん・泌尿器のがん・悪性軟部腫瘍・皮膚のがんなどの薬物療法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1~4, 10~13, -1	遠藤 泰

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験の成績により評価する(100%)。ただし授業態度に問題がある場合、試験成績より減点する(最大10%)。

【教科書】

1. 詳解薬理学 広川書店
2. 病気がみえる vol.6 (免疫・膠原病・感染症)メディックメディア
3. 薬がみえる vol.3 (感染症と薬・悪性腫瘍と薬など)メディックメディア
4. 病気がみえる vol.5 (血液)メディックメディア

【参考書】

New 薬理学 南江堂
薬物治療学 南山堂

【備考】

必要に応じて講義プリントを配布する。
状況に応じて遠隔授業とする場合がある。

【学修の準備】

第2学年で学習した「薬理学総論」、「病態生理学総論」の関連する項目を事前に復習しておくこと。予習としては、次回の授業範囲に相当する教科書を読んで疑問点を明確にしておくこと(50分)。復習としては、配布プリントなどを活用し、講義内容を再度理解し、次回の講義に備えること(50分)。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

- E2 薬理・病態・薬物治療
(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬
【 抗菌薬】1,2
【 抗菌薬の耐性】1
【 細菌感染症の薬、病態、治療】1~10
【 ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】1~6
【 真菌感染症の薬、病態、治療】1,2
【 原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】1,2

【 悪性腫瘍】1～3

【 悪性腫瘍の薬、病態、治療】1～13

【 化学構造と薬効】1

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

遠藤 泰（薬剤師）、柳川 芳毅（製薬企業において創薬研究に従事）

【実務経験を活かした教育内容】

実務経験から修得した事項をもとに、薬物療法学（感染症、悪性腫瘍）に必要な知識について教育を行う。
創薬に携わった実務経験を活かし、実践的な教育を行う。